



有限会社 大工町サカモトメガネ 1893(明治26年)創業

今回で紹介するのは、宇都宮商工会議所と同じ明治26年に創業し、今年120周年を迎える老舗「大工町サカモトメガネ」。宇都宮市商店街連盟会長を務めるなど、地域活性化に尽力してきた代表取締役の坂本恒五郎さんに、事業継続への思いをうかがいました。

## 信用を生む「確かな技術」

店内には、子供用から**鑿甲**などの高級品まで常時3千本ものメガネフレームが整然と並んでいます。種類ごとに分別し、お客さまが手に取りやすいように低い陳列台に等間隔に並べるのがメガネサロンサカモト流。光を反射してキラキラと輝くフレームから、商品であるメガネへの深い愛情が伝わってきます。

創業は明治26年。初代坂本文吉氏が大工町(現在地)に

印鑑を商う「坂本印房」を開業したのが始まりです。親類が宮島町に構えた眼鏡店の繁盛ぶりをヒントにメガネを置くようになったのは、大正11年頃。その後、時代とともにメガネが商いの中心になっていきましたが、「先代からの顧客を失うわけにはいかない」と、印鑑とメガネの兼業という営業スタイルは現在まで受け継がれています。

「事業を継続するために大切なのは、信用です。家訓などはありませんが、先代は常々『お客さまのため』『信用が大事』と言っていました」と話す坂本恒五郎さん。銀行員だった坂本さんは、その実直な働きぶりを見込まれ婿養子として昭和31年に入店。先代の背中を見て経営を学びながら、検眼機トップメーカーの講習に

通って検眼技術を磨いてきました。

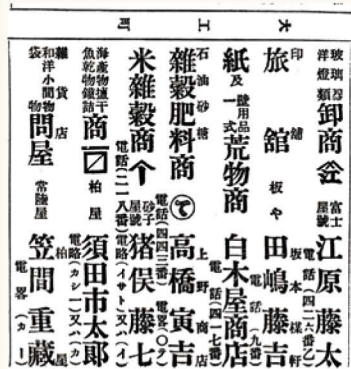
店を引き継いだのは昭和46年。その翌年には個人商店だった店を法人化し、有限会社大工町サカモトメガネを設立しました。昭和53年には戦後3回目となる店舗の建て替えを行い、店名を「メガネサロンサカモト」と現代風にするなど、老舗であっても変化を恐れず、時代に即応した経営で事業を展開。バブル期には多店舗化の話もあったそうですが、「自分の目の届く範囲で営業したい」と、1店舗主義を貫いた

そうです。常にその胸にあつたのは、「確かな技術で信用に込める」とのポリシー。「メガネをお作りしたお客さまの顔は覚えていません。メガネを見れば、当店で作ったものだとうぐにわかります」。その言葉には、真剣にメガネと向き合い、良質なメガネを提供したいとの

思いがあふれています。

「今は、メガネはファッション的に捉えられています。本来はお客さま一人ひとりの視力をしっかり測定し、目の状態や使用目的、ライフスタイルに最も適したメガネを提供するのが私たちの仕事です。メガネ店が増え、技術の高さを競うのではなく、価格競争になってしまっているのは残念です」と言う坂本さんは今、公益社団法人日本眼鏡技術者協会の栃木県支部長として「認定眼鏡士制度」の啓発活動に熱心に取り組んでいます。「現在、認定眼鏡士を国家資格にする取り組みも進めています。栃木県内には約90人の認定眼鏡士がいます。消費者の方々には、認定眼鏡士の元で、安心して技術レベルの高いメガネを作っていたほしいと思います」。

今後の経営についても「事



明治40年発行の「栃木県営業便覧」。旅館「板や」の右隣に印舗「坂本榎軒」と記されている



低い陳列台にフレームが整然と並ぶ店内、業継続が難しい時代ですが、従来通り本当にいいものを提供し、眼の健康を気遣う方へ選ばれた店でありたいですね。資源となる技術力向上を目指し、学びの日々が続きます。

### メガネサロンサカモト

宇都宮市大通り2-4-6

☎028-634-0022

[営業時間]

午前9時～午後6時45分

[定休日]

第1・第2・第3水曜日  
(月末は休まず営業)